

長沢川

大津市立瀬田北小学校 学校だより

No.5 令和6年7月19日発行

校長 松永 健(文責)

児童数 1,079名(7/19現在)

モンスターハントの旅に出かけよう(終業式挨拶)

今学期、無事に終業式を迎えられましたこと、保護者や地域の皆様のご支援ご協力があったからこそと、御礼申し上げます。

ネットを見ておりましたら、面白い記事(表現)を目にしました。

授業中、先生から出された問題を「モンスター」だとします。

*子どもたちはモンスターを倒すため次のような努力をするでしょう。

モンスターの弱点を探す

今まで倒してきたモンスターとの共通点や相違点を考える

こうやって倒そうという見通しを立てる

みんなで協力して倒す

*こういうモンスターはこう倒すとよいと知ります。

*次に同じようなモンスターが出てきても、倒し方を知っていて簡単に倒せるようになります。

やがて子どもたちは、学校の外で“野生”のモンスターと出逢います。

*モンスターと出逢ったときに、倒し方を考えます。

*授業で倒したモンスターの倒し方を思い出し、倒す努力をします。

*より自らを成長させます。

かけ算・ひっ算・漢字・跳び箱・縄跳び・かけっこ・リコーダー・・・1学期様々なモンスターと学習中に出会ってきた子どもたち。その都度、自分の力で、友だちと協力しながら、先生の力も借りながら、モンスターを倒そうと頑張りました。倒せたことも多いでしょうし、時に倒せず降参したこともあったかもしれません。結果よりもプロセスが大事です。どう挑んだか、誰と挑んだか、どのような手段を使おうと工夫したか、努力したか・・・その経験が、次のモンスター退治に生きて働きます。社会に出て“野生のモンスター”として現れても、学校での学習経験を駆使しながら、退治に取りかかることでしょう。

さて、夏休みに入ります。みんな学習・じぶん学習・・・、習い事などで腕を磨きたいこと・・・、遊びに出かけたときに初めて経験することや乗り越えたいこと・・・、ひとりで経験すること・家族と経験すること・・・、さまざまな“モンスター”と出逢うことでしょう。それはまさに“野生のモンスター”。たくさんのモンスターをハントする壮大な夏の旅の始まりです。モンスターを退治しながら成長を遂げ、一回り大きくなって2学期を迎えてくれることを願っています。

＜終業式では代表の先生に「夏の挑戦」を話してもらいました＞

松原先生・・・ソフトボール全国大会に出場。一昨年度3位、昨年度1回戦敗退。優勝目指して挑みます。

櫻木先生・・・子どもが補助輪無し自転車に挑戦。それを手伝いながら、子どもと一緒に挑戦します。

北尾先生・・・7月末で退職し、今と同じように、人のために勉強し続けます。新しい仕事に挑戦します。

瀬田北小のみなさんも、この夏、一狩りしてみよう

「夏休みミーティング」等について

哀しいことですが、時折子どもが自ら命を絶つというニュースを目にすることがあります。とりわけ、9月などの新学期に多く、この夏休みの過ごし方が重要視されています。本校では、子どもたちの心身の状態を把握したく、ご家庭に協力いただいて、「生活状況把握」と「夏休みミーティング」を夏休みの前期と後期にそれぞれ取り組みます。特に、後期のミーティングにはぜひ出席し、元気な顔を見せてほしいと願っています。

生活状況把握

Microsoft Formsにて行います

7/26（金）にURLをteturu配信します

7/30（火）までに返信をお願いします

夏休み学級ミーティング

Teamsで行います（全学年タブレット持ち帰り）

8/21～8/26の間で、各学級開催します。

各学級の日時についてはteturu配信済みです

各ご家庭において、この夏休みに「体験や感情を共有する機会」をぜひ多く持っていただきたいと思います。モンスターの一狩りをぜひお子様と「一緒に経験」「同じ目標で体験」していただき、「共に喜び」「共に楽しみ」時に「共に悲しみ立ち上がる」そんな感情の共有をしてください。それが子どもたちの自尊感情を伸ばすことに繋がります。

子どもを“暴力”から遠ざけること

夏休み、おうちで過ごすことが多くなります。

例えば、敵を“暴力”で倒して爽快感を味わうテレビゲームに没頭していることはありませんか？

ないとは思いますが、子どもの“暴力・暴言”をおさめるために、ゲームやスマホをあてがったりと言うケースは過去ありませんでしたでしょうか。

例えば、兄弟姉妹がいるご家庭で、日常的に兄弟げんかが“暴力”を伴って起きていませんか。またそのケンカはどのように収まりますか？親御さんが“腕ずく（暴力）”で止めていただかないといけなくなっているのではないでしょうか？

“暴力”が身近にあったり、“暴力”を目にすることが多かったり、“暴力”によって徳を得る経験をしていると、子どもは“暴力”へのハードルが下がったり、肯定したり、間違っただけで済んでしまうといわれています。

一歩外に出れば一般社会のルールの中におかれますから、もちろん“暴力”は許されません。仮に家で良しとされていたならば、子どもはそのギャップに戸惑います。

子どもたちの健やかな成長のため、子どもたちの見守りやご家庭での関わりをどうぞよろしくお願いいたします。

夏休みを安全に過ごすために

今日の終業式で、生徒指導担当より、イラストを交えながら子どもたちに注意喚起を行いました。



水の危険

川や海、湖などには
子どもだけで行かない

火の危険

子どもだけで火は
使わない

車の危険

交通ルールを必ず守る

